

2015年
4月5日[日]
136号

地域共創・未来共創の大学へ

広 沖縄大学 報

発行
沖縄大学 経営企画室
〒902-8321 沖縄県那覇市字国場555
☎ 098(832)2910
<http://www.okinawa-u.ac.jp>



Contents

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 02 新入生へのメッセージ | 06 「学生プラス」の活動が総務大臣賞（後編） |
| 03 海外ゼミ旅行・国際交流 | 08 2014年度卒業式・修了式 |
| 04 わがゼミナール／研究のひろば | 14 2014年度奨学生／リレーエッセイ3 |
| 05 辺野古を巡る鼎談・シンポ開催 | 16 2014年度寄附金 |

妻が外出から帰ってきた。
今日はいい買い物ができたよ」と上機嫌。
さては最近凝っているカメラの付属品でも
買ったか、しかし、それなら帰宅早々夫に報告
はすまい。もしかしたら冬物一掃のバーゲンで
夫のカーデガンでも買ってくれたか、と思つたら…。

高原の駅に寄つたら、オキダイナを売つて
いた。「東買つてきた」とのこと。「高原の駅な
んじよう」とは、ナンゾヤ？ 私はまだ行つたこ
とはないが、旧玉城村にある農産物の直販所だ
そうだ。オキダイナはレタスのような葉野菜。
「レジのおじさんはただ者ではないはず。オ
キダイナが、沖縄大学の山門先生によつて中国
から導入されたこと、野菜の品薄時の夏場にで
も収穫できることなんちゃんてんと説明してく
れた」とのこと。市内のスーパーで手に入らな
いし、そして何よりも、わが沖大の名前を冠し
た商品であることを、妻は喜んだのだ。その夜、
我が家の大夕食はオキダイナの豆腐うぶしーであ
つた。

ところで、オキダイナでは、オキダイが沖大
であることに気が付かないことが多いが、今度
の商品には、沖大
菜と漢字表記も
付記されている。

やかな社会貢献
あるが、それが
沖縄大学のさ
文字通り目に見
えることを私は
嬉しく思つた。



学長コラム (2)

沖大
菜

仲地
博

新入生へのメッセージ



地域(沖縄)の自立発展を研究する

大学院現代沖縄研究科長
新城 将孝

入学おめでとうございます。皆さんにはなぜ「大学」に入学したのでしょうか。大学は4年間という長い教育期間だけでなく、その内容もかなり「まわり道」です。特に人文学部は「社会ですぐに役に立つ」ノウハウだけを習得する場ではありません。ここは「何のために学ぶのか」「何のために働くのか」そして「人はなぜ生きるのか」を福祉や教育や多様な文化を通じて学び合う場です。もちろん就業に必要な知識や技術を学ぶ授業も多く用意されています。かしそれだけではない「何か」を追及する先生がすぐれた「何か」を拓ける。私はそう思います。こそ自分の未来も拓ける。私はそう思います。

大学院では、地域(沖縄)の自立的発展に関する研究をします。地域経営専攻では、「経済・産業分野」「法律・自治(行政)分野」「健康福祉・生活環境分野」、沖縄・東アジア専攻では、「沖縄地域研究分野」「東アジア地域研究分野」を中心とした研究をしています。当然、地球市民・地域市民として学んでいます。進学には、現代沖縄研究奨励賞(奨励金)もあります。



なぜ「大学」なのか

人文学部長
宮城 能彦

入学おめでとうございます。皆さんにはなぜ「大学」に入学したのでしょうか。大学は4年間という長い教育期間だけでなく、その内容もかなり「まわり道」です。特に人文学部は「社会ですぐに役に立つ」ノウハウだけを習得する場ではありません。ここは「何のために学ぶのか」「何のために働くのか」そして「人はなぜ生きるのか」を福祉や教育や多様な文化を通じて学び合う場です。もちろん就業に必要な知識や技術を学ぶ授業も多く用意されています。かしそれだけではない「何か」を追及する先生がすぐれた「何か」を拓ける。私はそう思います。こそ自分の未来も拓ける。私はそう思います。



社会に出る準備期間としての4年間

法経学部長
小野 啓子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。21世紀に入り、日本を取り巻く状況は大きく変わりました。終身雇用・年功序列といった従来の日本型経営は過去のものとなり、雇用形態も変化しています。変化の多い時代を生き抜き、ひとつ企業や組織に頼るのではなく、自立した個人としてキャリアを築いていくためには必要とされる基礎的な力を、これから4年間で身につけてほしいと思っています。大学時代に必要なチャレンジをし、経験を増やし、社会に出るための準備をしてください。私たちもしっかりと応援していきます。



夢のために不断の努力を

人文学部 国際コミュニケーション学科長
木村 英紀

国際コミュニケーション学科へようこそ。本学科は、語学を土台に国際舞台で活躍する人材を養成する学科です。新入生の皆さんもそのつもりで入学したはずですから、それをを中心に4年間の目標を立てて下さい。それは地道な努力が必要です。そうしてこそ、豊かな想像力と感性が磨かれ、コミュニケーション能力が伸びていくのです。楽しい学園生活を楽しみながらも、自分の夢のためには不懈の努力を続けていきます。



考えることの楽しさに気づこう

法経学部 法経学科長
吉本 篤人

法経学科への入学おめでとうございます。新入生の皆さんは、混迷する現代社会を見通すためのツールとして、法・経済・経営といういわば3種の「メガネ」のかけ方を獲得することを目指します。そのためには、他人が用意した解答や用語を覚えるだけの勉強は十分ではありません。自分自身で徹底的に考えたときにしか生まれない「そうか!」という知的高揚感を体験して、考えることの楽しさに気づくことを願っています。



こども文化学科 第9期生のみなさんへ

人文学部 こども文化学科長
喜屋武 政勝

こども文化学科第9期生の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。本学科は、小学校の教師をはじめ、子どもを養成する学科で、いかかわる専門的な職業の人を養成する学科です。「何」を、「だれ」に、「い」ます。かぎり取り組んでいくことができます。そのことの備えに可能なかぎり教える内容(教科)、教える相手(児童、教える方法(指導))について、貪欲に学んでいくことを期待します。学科のスタッフ一同、その全般的なサポートをお約束します。



自由とは自分への信頼である

人文学部 福祉文化学科長
下村 英視

人は、自由について語るとき、通常、結果から考へる。選び、決定することができたから、自由では、選ぶことも決定することはできない場合に、私は、ある、と考えている。私たちにはできないことは、ないのだろうか。私は、ある、と考えている。私たちにはできないことは、多い。でも、可能性を考え、努力する心を差し向け、願いを込めて生きる。この自由は、自分への信頼と言い換えること。大学で皆さんが、身につける自由とは、この信頼に基づいて学び、人との関係をつくりだし、していくことである。



赤嶺
美佑

ベトナム 吉井ゼミ

ベトナム、と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？私は昨年9月、ベトナムスタディツアーリに参加しました！多くのバイクが行き交い、高級ブティックと老舗の屋台が入り交じる景色、出会った人々との思い出が浮かんできます。

私たちは10日間で様々な体験をしました。国際協力に携わる日本人からお話を伺い、ベトナムが抱える問題、日本の問題を知り、海外で働くことの難しさと楽しさを感じました。少数民族の村では日本の原発輸出の問題やベトナムの社会の言論の自由、マイノリティに押し付けられる構造を。ストリートチルドレンの保護施設で触れあつた、子どもたちの笑顔とパワー!! どれも座学では得られないことでした。

現地では言葉が通じないこともありましたが、ベトナム人や彼らの文化と接することで多くのことを学び、考え方や視野が広がるきっかけとなりました。

現在、私は台湾に留学中です。皆さんも沖大から世界へ飛び出してみませんか?



仲道ありり

法経学科(新) 3年

アニヨハセヨ！去年の9月15日から5日間、韓国を訪れました。沖縄から内地に行く飛行時間で着くので、韓国は海外というイメージが湧かないでしよう。韓国は、日本と変わらないと驚いたのが第一印象です。韓国に行くなら、明洞へ行くことをお勧めします。明洞街は多くの店が建ち並び、ロッテ免税店やお土産屋、食事、遊びも出来る楽しい街です。

ところで、私達が必ず困ることはトイレです。公衆トイレはなく、店にしかありません。地下鉄ではトイレットペーパーがない所がほとんど。そして一番困るのはやはり言葉です。でも、大丈夫！ 韓国の人々は皆心温かく人情持ちの人が多いです。

私は人生初の海外体験ということで不安ばかりでしたが、周りに助けられとても楽しい時間を過ごせました。自分の知らない世界に出ることで自分の未熟さに気づき、自分の価値に気づき成長できた旅になりました。皆さんも是非韓国に行つてくださいね。カムサハムニダ！

海外ゼミ旅行・国際交流～アジア編～

沖縄大学では、様々な海外ゼミ旅行を通じた国際交流の機会があります！

(昨年度実施された中から一部を紹介)



玉元里佳子

シンガポール 嘉数ゼミ

私は2月のゼミ旅行で初めてシンガポールへ行きましたが、食べ物も美味しくとても楽しい5日間でした。ユニバーサルスタジオやマリンスポーツ体験、市内観光など、とても濃い5日間だったと思います。

ゼミ旅行では、事前に調べた写真や資料で見るよりも、実際に見る風景や文化はとても素晴らしい、写真などからは伝わってこない迫力などを体感することができ、現地へ行くことの大切さを実感しました。

一つ、反省点としては、英語がほとんど話せない状態で行ってしまったことです。もっと英語が話せれば、聞くことができれば、もっと気づいたことや、人と交流する機会もあつたと感じました。

今回のゼミ旅行を通して、改めて外国を肌で感じるこの素晴らしさを知ることができ、もっと世界の歴史や地理、そして英語を勉強しなければと感じました。一緒に行動したメンバーとはこれからも長く付き合いたいと、この旅行を通して強く感じました。



新垣ミーナアン

マレー・シア
シンガポール

スラマツパタン！ 2月25日から5日間、マレー・シア（アーランブル、マラッカ、ジョホールバル）とシンガポールへ行つてきました。今回、私に初めての東南アジアへの旅となりました。

マレー・シアへ行く前はマレー・シアがどのような国なのか全く分らなかつたのですが、沖縄よりも都会で、驚きました。マレー・シアはイスラム教徒の多い国といふことで、行く前は少し緊張しましたが、マレー・シア人は凄くフレンドリーで多国籍国家のため、居心地の良い国でした。

シンガポールには数時間しか滞在しなかつたのですが、テレビで見たイメージ通りでリッチで綺麗な街でした。マレー・シアとシンガポールは英語圏なので、言葉で困ることはありませんでした。

初めての東南アジアの旅はとても新鮮で楽しく、次はタイやベトナムへも行つてみたいなど思いました。トウリマカシ！



わがゼミナール

学年を超えたゼミ活動

法経学部 法経学科 准教授

川崎 和治

法経学科のゼミナールは、1年次から3年次までは必修科目になつており、全学生が3年間少人数のゼミ活動を経験することになる。加えて4年次でもゼミの履修が可能となつてゐるため、実質的には、4年間のゼミ活動が可能である。

私のゼミでは、学年によつて濃淡はあるものの、基本的には民事法領域の紛争処理に関する問題をテーマにしている。しかし、法経学科の学生は、法律、経済、経営といった領域を広く学ぶことができるところから、在籍するゼミ生の興味も広範に及ぶことも多々ある。そのため、年間を通して一つのテーマについて追いかけるのではなく、それぞれが興味を持つている領域について、調査・研究をして報告をしてもらい、それについて皆で議論をすることになる。

しかし、統一テーマについてゼミ生が一丸となつて調査・研究することができるようになつてきた。夏季休暇中にチーム演習が行つてゐる、東洋大学法学部との合同ゼミに向けての活動がそれである。2013-2014年度と、沖縄大学において両大学の合同ゼミを実施することことができた。ゼミ生は、東洋大学の学生との間で何度もメールや電話で打ち合わせをすることができた。

る中で、調査を行い、資料を作成していく。私はできる限り口を挟まないようしているのであるが、次々に出てくる論点や問題点を、彼らなりに、一つずつ処理をして前に進んでいく。合同ゼミ直前になると、彼らの顔つきがグッと引き締まつてくる。頼もしい限りである。

この貴重な経験は、秋に行われる学園祭の出店というイベントにも引き継がることになる。合同ゼミも学園祭も、私が担当するすべてのゼミ生に対し、学年を越えて参加を呼びかけ、一緒に活動することが定着してきた。これはいつの間にか彼が決めたルールである。年度によつても異なるが、裁判所の傍聴や動物愛護センター見学などの学外活動の際にも同様に呼びかけがなされ、学年を越えた交流が行われるようになってきている。最近では、卒業生が彼の勤務会社に後輩を入れさせることで多くの種子が開花するようになつた。

ゼミナールが、ゼミ生を大きく育てる畑となるよう、そして多くの種子が開花するよう祈念している。

非日常的出来事を求めて東京の成田空港に降り立ち、荷物を待つているところに見知らぬ女性が私の方に近づき日本語で何かを訴えてきた。二コニコ笑みながら彼女の話が終わるまで待つて韓国語で「私は韓国人です」というと、彼女は何にも言わず強張った顔持ちで去つて行つた。未だに彼女の日本語はわからずじまいだが、今考えるとここから日本の研究生活は始まつた。

日々日本語と格闘していた1990年代後半、日本社会は親の介護問題と家庭崩壊という社会問題に直面していた。“社会みんなが高齢者の面倒を見る、子を育てていく”という文句は、日本と同じく韓国においても親が子を育てる、子どもが年老いた親の面倒を見る、という当然視される考え方のもとで教育を受けてきた筆者にとって大変興味深く斬新な考え方であった。この考え方には、「福祉」研究という学業生活を始めさせた。

「福祉」とは、「助け合い」「支え合いい」といった相互扶助論をその根幹に据えていると言える。互いに助け合う、互いに支え合う、といふ言葉には、信頼関係、人とのつながり、ネットワーク、連帯感などをそ

研究のひろば

相互扶助与福祉政策

人文学部 福祉文化学科 講師



人文学部 福祉文化学科 講師
金 蘭姫

の前提として持っている。例えば、お互い助け合いたくても相手を知らなかつたら助けることができず、助けてくれと頼みたくても相手とつながつていなかつたら頼めない。それは、孤独死や虐待、自殺などあつてはならない結果を生んでしまう。「福祉」研究は、どのようにすれば、経済的に恵まれていなくても、血縁・地縁がなくても、子どもは教育を受け健やかに育ち、彼女／彼は仕事と子育ての両立ができ、健康な人は働きがいのある仕事に務め、障がい者や高齢者は安心で楽しい日々を過ごすことができるのか、という質問に答えようとしている。

地域社会で自発的に隣同士の助け合いに焦点を置くと地域福祉の研究分野になり、社会システム上で社会全体的な支え合いに焦点を置くのが社会保障及び福祉政策の研究分野である。学業に充実し、就職し、社会人として働き得た所得の一部分を税金や保険料として支払う人々の行為のもとで年金・医療・生活保護などの社会保障制度は成り立つ。現代社会は、人々に子育て及び家族の面倒等私的生活と仕事という両立を求めている。その解決策は地域福祉の考え方と社会保障の考え方の調和にあるのではないか？

那覇市と連携協力協定を締結

本学は2月18日、那覇市と地域の人材育成などを連携する「那覇市と学校法人沖縄大学との包括連携協力に関する協定」を結びました。

協定書の調印式では、人材育成のほか、地域づくり、健康福祉社会づくり、教育文化振興の4項目会議で、教育文化振興の4項目の連携を確認。城間幹子市長は沖縄大学が掲げる『地域共創・未来共創』の理念で地域づくりに取り組むことで、那覇市と大学相互の発展の道が開かれると確信している。人材育成は沖縄の発展に不可欠であり、協働のまちづくりのために、連携を強固にし、両者のさらなる飛躍を目指していくたい」といさつ。仲地博学長は「沖縄大学は県都那覇で学べる。沖縄大学が市民に役立つ大学であるためにも、那覇市の協働のパートナーとして、地域づくりに協力したい」と語りました。



協定を結ぶ城間幹子那覇市長と仲地博学長 <那覇市役所>

鼎談 辺野古新基地建設強行と戦後民主主義



(司会) 桜井国俊 沖縄大学名誉教授

川瀬光義 京都府立大学教授

宮本憲一 大阪市立大学・滋賀大学名誉教授

新崎盛暉 沖縄大学名誉教授

2月9日 喫緊の課題について、 鼎談・シンポジウムを開催

沖縄の開発と自治について長年提言してきた環境経済学が専門の宮本憲一氏と在沖米軍基地を維持するため日本政府がどのような政策を探ってきたかを分析した『基地維持政策と財政』で今年度の伊波普猷賞（沖縄タイムス社主催）を受賞した川瀬光義氏が授賞祝賀会のため来沖したのを機に、2月9日（月）同窓会館でシンポジウム「辺野古新基地を問う」（主催・沖縄環境ネットワーク／共催・沖縄大学）が開催され、230名の市民が聴講しました。

講演の部では、桜井国俊氏による「日本の未来を奪う辺野古違法アセス」、川瀬氏による「『金目』政策はもう通用しない」、宮本氏による「日本の沖縄政策と辺野古問題－戦後民主主義の分岐点」のタイトルで、自然環境、地方自治、地方財政の視点から辺野古を巡る緊迫した課題について大局的な解説が丁寧になされました。参加者からは「沖縄政策として、戦前の高等教育不在による産業発展の遅れがあつたとは。今日までその影響が続いているのかと思うと涙が出た」「辺野古で問われているのは、沖縄の心、内発的発展、隣国との共生だと思った」「住民が主体となつて地域づくりを進めていくようになるべきと感じた」等の感想が寄せられました。

また同日は、シンポジウムに先立つて「辺野古新基地建設強行と戦後民主主義」をテーマに鼎談が行われました。桜井氏の司会進行で、川瀬氏、宮本氏、そして沖縄現代史が専門の新崎盛暉氏が、「昨年の名護市長選から衆議院選までの一連の流れ」「沖縄の民意が繰り返し示されたにもかかわらず政府が建設を強行するのはなぜか」「辺野古の新基地建設反対運動は戦後民主主義の中での位置づけられるのか」等について、鋭く示唆に富んだ論を交わしました。

本鼎談の詳細については、新崎盛暉氏、故・岡本恵徳氏（元琉球大学名誉教授・沖縄大学教授）らを中心とした新沖縄フォーラム刊行会議が発行する季刊雑誌「けーし風」86号に掲載

シンポジウム 辺野古新基地を問う



■開会挨拶 仲地博学長 ■中央写真 左から (司会) 砂川かおり 沖縄国際大学講師、(パネリスト) 川瀬光義氏、宮本憲一氏、桜井国俊氏 〈沖縄大学同窓会館〉

「学生プラス」の活動が総務大臣賞受賞

県内の学生たちが離島の中学生と語り合う学生団体「学生プラス」の活動が、2014年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」(あしたの日本を創る協会主催)の総務大臣賞を受賞しました。3年次まで代表を務めた玉城征也君(法経学科新4年)の話を前編に統いて紹介します。

—玉城君は1年生のとき、粟国島で

「15の春」と言いまして、離島の生徒たちは進学のためにはどうしても島を離れなければなりません。そのとき、その子たちが島を出ざるを得ない」という状況から、夢や目標を持つて「出る」ということに変えたい島から出てきた子たちは、一人暮らしで、兄弟と住んだりして、家事と勉強を両立しながらやつていかなければならぬし、部活動もやつたり、忙しいんです。そういう中で夢とか目標を明確に強く持つていないと、さぼり気味になったり、非行に走つてしまつたりということにもなります。そういう子たちを生まないために、島を離れる前に、夢や目標と学生プラスを立ち上げたOBの波平さんにお会いした。そして「夢や目標を語れる大学生を島へ連れて行って、島の中学生と話しながら生徒たちの想いを引き出したい。そうしたら島を出てもしっかりと自分の夢や目標を持つて高校生活を送ってくれるんじゃないかな」という彼自身の苦い体験から出てきた「学生プラス」立ち上げの話に触発されて、玉城君自身が変わつていったということでしたね。スイッチが入っちゃつたと。出身の石垣島で同級生に会うと、「変わつたね」「高校時代と全然違う」って言われます。

「学生プラス」のプラスの意味は？
学生だけじゃなくて、地域も巻き込んで活動していくという意味です
「15の春」という問題がある中で、離島の子どもたちが自分の夢や目標を持つて島を出て、将来自分の生まれ島や離島に貢献できる人材になつてほしいなということを私たちは一番に思つて、地域の学校にも協力を頂いて活動しています。

—離島から大学へ進学する場合も厳しい状況ですか？

一島を出る前の中学生に目的意識をもつてもらいたいということですが、どのようなアプローチを？

目的意識を無理強いするわけではなく、やさしく問い合わせるやり方だつたり、その子のやる気が出るようにならせるんですね。中学生も高校生も、大学生もそうだと思いますんで、でもやらないじゃないですか。勉強の大しさが分からず、勉強の大ささがいるのに、中高生って、勉強の大ささや必要性が分からぬと思うんです。でも、自分が本気でやりたいことには想いがあるじゃないですか。この想い

ことを選んで伝えるので、そこで自分を振り返ることができるので、大學生もすごい鍛えられます。

——中学生と話をしながら、大学生に
もいい影響がありそうですね。
大学生も自分の過去を振り返つて
自分が中学生に何を伝えられるのか
ということを一度考えなければなら
ないんです。自分が本当に伝えたい
ことは何か。やはり言葉にも想いが
乗らないとぜつたい伝わらないので
この想いというものをブローと書い
てきて、その中から本当に伝えたい
ことを選んで伝えるので、そこで自
分を振り返ることができるので、大
学生もすごい鍛えられます。

なつて、次も自分たちの会社を使つてくれる、そんな会社を石垣で作れたら、新しい形の観光ができるのかなと思つています。

「石垣島を観光で盛り上げていきた
いということですね？」
観光で盛り上げたいのはもちろん
ですが、観光で盛り上げるとホテン
ル建設たり、商業施設がどんど

いて、これらを融合させたら何か面白いものが生まれるんじゃないかな」と。ただ旅行に来てもう、だけではなくて、旅行に来てもらつた際に何かしらのサプライズをしてあげることで、その人たちがリピーターに

—観光業でということですが、将来どのような起業のイメージを？

いはあるけど、実際に何したらいいか分からぬとか。そういう子たちの想いを引き出して、じゃあその夢を実現するために実際に何ができるんだろうというのを一緒に考えて今やるべきことを、自分たちがアドバイスするのではなくて、その子が自発的に「こうしたらなれるんじやないのかな」と話してくれるのを一緒に考えながらやっていくことで、その子の目的意識をどんどん向上させて、夢、目標を達成したいという想いもどんどん強くなつて、島を離れて島ごとおのづかず、そこならうで

一玉城君は卒業後に石垣島へ帰りますか？

自分はまだ、帰ろうとはぜんぜん思っていないんです。観光業で起業したいというのはもつと先の話ですね。一度企業に就職してノウハウを勉強してから起業したいなと思っています。

ん開発されて、観光業をしていきましたのになんでどんどん自分たちの魅力を壊していくのかなと、正直疑問に思っています。実際新しいホテルができていて、そうするとどう森林を伐採し、土地を変えたりしてやっているので、少なからずの影響が出ると思うんですね。新空港もそうなんですが、環境アセスの授業で勉強したんですが、石垣島の新空港は辺野古の次に問題のある環境アセスだったらしく、環境をしっかりと守れなかつたと言われていて、空港は仕方なかつたのかもしれないが、その他の商業施設や道路がどんどんできてきている状況なので、そういうのを「やめてほしい」とは言えないんですけど、観光をメインにしていく中で自分たちが誇らなしといけない自然をどんどん壊しているのはなんとかなというのはずつと疑問に思っています。やっぱり自然と観光の両方を守りながら、活かしながらの観光をやつていきたく思っています。

— 石垣島の良さとは？
— 海がきれいとか、県内で一番高い山もあるとか言われますが、人が温かい何て表現すればいいか分からないんですけど、自分の利益とか見返りを求めて行動する人たちが多くて、それが島の温かさなのかなと、ほんとにみんなお節介なんです。それがいいところなど思っています。石垣島を世界に誇れる島にしたいというのは前から常々思っています。そして、こんなに素晴らしい島で、温かい人たちで、こんな島ないと思って、

— 他に、どのような収入源がありますか？
— 先日、琉球エイドを達成しました。ネットを使ったクラウドファン

で、「こういう活動をしているので募金・寄付お願いします」と募集をかけて、「学生プラス」の活動に賛同してやつているので、少なくなります。ホテルができていて、そうするといふんでもらいたいので、どんどん発信していきたいと思っています。

— 今やっている「学生プラス」の経験が、島の未来につながるといいですね。利益を目的にやつていないので、こういう活動がゆくゆく島の地域づくりにつながつてくれればいいなと思います。私自身は、これからどういう方向に行くのか、どういったことを学びたいのか、ということを常々考えている3年生なので、企業研究、業界研究をしている状況です。

— ところで、総務大臣賞を受賞した経緯は？
— コンテストに応募したいという意思があつたわけではなくて、資金で思はれていました。これは、メンバー以外のボラスタさんも払うので、本当に子どもたちにこういう話を伝える」という強い想いをもつて行つていた

— ポケットマネー—
— 離島へ行く際に、遊びじゃなく責任があるんだという意味を込めて、3割負担というのを設けていまして、経緯は？
— ところで、総務大臣賞を受賞したコンテストに応募したいという意思があつたわけではなくて、資金で思はれていました。これは、メンバー以外のボラスタさんも払うので、本当に子どもたちにこういう話を伝える」という強い想いをもつて行つていました。

— ポランティアスタッフは自己負担があつても応募してくれる？
— 学生同士で交流したいというのがあると思うんですけど、やっぱり離島へ行つて子どもたちと話すということに魅力を感じてくれています。実際に「行きたい」という声をたくさん聞きます。でも、沖国とか琉大の学生が多いので、もつともっと沖大のボランティアスタッフも連れて行つて、一緒に夢とか目標を語り合える機会がどんどんできればなと思うんですけど、自分たちの力不足でなかなかできない状況です。

— 沖大生にも頑張ってほしいですね。自分が沖大に入ったときに、本当に

デイングというのがあつて、ネットで「こういう活動をしているので募金・寄付お願いします」と募集をかけて、「学生プラス」の活動に賛同してくださる方や、お世話になつていてくれる方に寄付を頂いて、目標金額があるんですけど、その金額を達成した（会計担当の上原優花さんの発言）

で、2月ごろずっと思っていました。でも、入つて1年たつて、喜び志向で沖大なんだとか、高校3年生いやそうじゃないぞと。大学で人生が決まるんじやなくて、自分が大学で何をしたかで人生が決まるんだつかさんやそういう先輩方に出会つて、こと言えます。これはもう、自信を持つことです。

— いい先輩に出会えて良かったですね。
— 出会つてなかつたら、今、何もしてなかつたと思います。人の出会いはだつたり、何かのきっかけで、変わることはできる。それは凄く思つていて、出会いは大切ですね。そう言うと自慢っぽいですけど、自分は全然まだですし、他の学生の足元にも及ばないなと思うこともあるし、だからもつともつと向上しなくちゃいけないなつて思う瞬間もたくさんあります。でも、沖大で一緒に盛り上げて長していきながら、周りの学生たちもみんなで一緒に沖大を盛り上げて、沖大が一番だねつて言われるような大学になりたいなつて、それは本当に思つています。まだまだいつ、沖大が一番だねつて言われる具体的にはまだ分からないんですけど、就職するときに、「なんか今年は沖大だよね」つて、新卒採用の方から聞きたくなつて思つてます。

— 卒業生の関わり方は？
— 後輩へのアドバイスはしてくれま



西表島大原中学校にて（左端が玉城征也君）

— 活動は続きそうですね。
— 続けたいですね。新メンバーの1年生が二人いるので、この二人から増やしていく、もっと多くの学生にこの「学生プラス」に入つてもいいですね。自分自身が実際に変わったという自信があるので、他の学生も「学生プラス」に入つて何かしら影響を受けてどんどん歩んではほしいなつて、すごく思いますね。
(2014年11月27日聞き手 後藤)

す。波平は会長ですのでいろいろ手伝つてもらつていて、他の社会人の先輩には応援のメッセージをだつたり、相談という部分で関わつていただいています。どんどん後輩に引き渡していかないと、バタツ崩れてしまうので。



2014年3月13日（於：那覇市民会館）

2014年度

卒業式・大学院修了式

3月13日（金）那覇市民会館において、沖縄大学卒業式及び沖縄大学大学院修了式が行われました。学部・大学院合わせて389名が卒業・修了の認定を受け、法経学科は学士（法経）、国際コミュニケーション学科は学士（国際コミュニケーション）、福祉文化学科は学士（社会福祉）、現代沖縄研究科地域研究専攻は修士（地域研究）、沖縄・東アジア地域研究専攻は修士（地域研究）の学位が授与されました。

学長告辭

沖縄大学学長 仲地 博

本日、晴れて法経学部、人文学部を卒業して学士の学位を得た387名の皆さん、大学院現代沖縄研究科を修了して修士の学位を得た2名の皆さん、卒業そして修了おめでとうございます。沖縄大学の教員・職員そして同窓会・後援会など多くの関係者が、皆さんのが旅立ちを喜びまた祝福しています。長い間お子様を物心ともに支えてこられたご両親ご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

沖縄大学は、1958年まだ戦争の傷跡が残る頃、沖縄最初の私立大学として嘉数昇先生によって創設されました。それから56年、沖縄になくてはならない大学として歴史を刻み、2万数千人の人材を送り出しました。今日、この学び舎を巣立つ皆さん

は、先輩方がそうであつたように、沖縄に留まる方も、県外国外へ飛び立つ方も、それぞれの地域の未来を築く中核人材として働いていただきたく思います。今日卒業式を迎えた多くの方は、2011年に入学しました。もつとも長い方は、4年間を沖縄大学で過ごしました。もつとも長い方は、7年間を要しました。4年間の方も7年間の方も、皆さん

が学生時代を過ごしたこの時代がどういう時代であったか、いくつかの出来事を振り返ってみたいと思います。

2011年、皆さんの多くが入学する直前の3月11日、宮城県沖で大地震が発生し、行方不明者・死者が、2万人を数える大惨事になりました。多くの皆さんが大自然の脅威を知り、そして突然襲い来る運命に、自分の価値観や人生観を改めて考えたことでしょう。沖縄大学は、福祉文化学科を中心に40名を超える大ボランティア団を現地に派遣し、泥にまみれながら清掃活動を行い、被災者を励ました。沖縄大学の歴史に記録される取り組みで

は、震災から4年がたつたようでも避難生活を続ける人は23万人と言われ、被災の傷は深く、多くの人々を苦しめています。沖縄大学は、そういう人々に寄り添える人材を育成する大学であります。

地震と津波は、東京電力福島原子力発電所を襲い、核燃料のメルトダウンを引き起こし、水素爆発で大量の放射性物質が大気中に放出されました。大地も草木も家屋敷も放射能に汚染され、町村によつては全住民避難といふ事態も生まれました。世界第二の経済力を誇り、世界最高水準の高い科学技術を持つと信じられた日本では、チエルノブイリのような原発事故は、起こらないと多くの人々は信じておりました。しかし、現実に起きた原発事故は、日本という国が、科学技術を盲信し、その限界に真剣に取り組んでこなかつたことを浮かび上がらせました。

2009年の衆議院選挙では民主党が大勝利を上げ、新しく登場した政権に国民の期待は高まりました。新聞

紙上では平和的に「革命」が起きたとも論評されました。しかし、民主党政権が、華々しく打ち上げたマニフェストは、例えば、中学生以下を対象にした子ども手当、最低保障年金の創設、高速道路の無料化など、財源の見通しの甘さから実現できず、あるいは中途半端で、有権者から厳しい批判を浴びました。「普天間飛行場は、最低でも県外移設」という党首の発言も撤回されました。自らかかげたマニフェストを実現できない党は、政権を降りなければならぬ、国民はそう考え、3年後の2012年の衆議院選挙では、今度は自民公明が圧勝して政権を取り戻しました。選挙で、政権交代が起きるのは民主主義社会で当然のことですが、戦後日本では、なかなか普通には実現しなかつたことです。それを皆さんは二度も目の当たりにしました。

2012年沖縄は、復帰40年の節目の年でした。10月、米軍の新型輸送機MVオスプレイが、県民の強い反対を押し切り普天間飛行場に配備されました。オスプレイには安全に対する懸念がつきまとい、県議会と全市町村議会で配備反対の決議が行われました。

は、例えは、中学以下を対象にした子ども手当、最低保障年金の創設、高速道路の無料化など、財源の見通しの甘さから実現できず、あるいは中途半端で、有権者から厳しい批判を浴びました。「普天間飛行場は、最低でも県外移設」という党首の発言も撤回されました。自らかかげたマニフェストを実現できない党は、政権を降りなければならぬ、国民はそう考え、3年後の2012年の衆議院選挙では、今度は自民公明が圧勝して政権を取り戻しました。選挙で、政権交代が起きるのは民主主義社会で当然のことですが、戦後日本では、なかなか普通には実現しなかつたことです。それを皆さんは二度も目の当たりにしました。

れ、総理大臣に『建白書』を手渡しました。沖縄大学の学生の中にも東京まででかけ、この行動に自主的に参加するグループもありました。普天間飛行場については、昨年名護市長選、県知事選、県議補欠選、衆議院議員選と相次ぐ選挙で、県民は、県内移設に反対する候補者を当選させました。多数の意思が明らかになりました。政府には移設作業を中止する気配はありません。民主主義とは何か、国と地域の関係はどうあるべきか皆さんも問い合わせています。

イスラム国が、二人の日本人を殺害した残虐な行為は、記憶に新しいところです。その衝撃が消えない中、ヨルダンの空軍パイロットが生きたまま焼き殺されるというニュースが流れました。ヨルダンはその報復として、イスラム国が釈放を要求していた死刑囚の刑を執行しました。報復が報復を呼んだのです。イスラム国は、イラン、イラクの国内で大きな勢力を蓄え、世界の若者がそれに合流する現実があります。その理由や背景はよく考えてみなければなりません。しかし、たとえどういう理由があるにせよ、このような残虐な行

為が許されるものではなく、そして憎しみの連鎖は断ち切らねばならないという思いは皆さんも同じでしょう。ここ数年間に起きた国際、国内、県内の出来事をいくつか取り上げましたが、皆さんのが学生時代は、このような活動の時代がありました。若い感受性は、時に怒り、時に絶望し、時に思い悩んだことであります。しかし悲観することはない、人類の叡智はこれまでに幾多の困難を乗り越えてきたことに思いを馳せて下さい。皆さんは、自らの足元をしつかりと固めつつ、仲間と、友と、地域と手をとりあって下さい。未来は必ず開けます。未来は、皆さんに委ねられます。

6年前に創立50周年を記念し、教育研究の理念を明らかにするものとして沖縄大學憲章を定めました。その一部を確認したいと思います。私が今述べたことを次のよう宣言しています。

皆さんには、こういう大学で学んだことを今一度確認し、誇りとして下さい。沖縄大学は、地域共創・未来共創の大学を理念とします。地域共創・未来共創の若き担い手として皆さんを送り出します。

皆さんには、今日晴れて学士のあるいは修士の学位を授与され、人生の一つの節目を作りました。厳しく変化する時代に雄々しく立ち向かって欲しい、そのことを心から願うにせよ、このような地域社会である「地域に根ざし、地域に開かれた大学」を大學存立の使命として深く自覚し、21世紀型社会である「グローバル社会」の要請に応える形でこの

沖縄大学の歴史を通して地域共創・未来共創を学ぶ講義「沖縄大学論」において、創立55周年を記念した沖縄大学学生歌『未来に続く学舎』を作詞し、歴史から未来を創っていくという本学の理念を象徴したその歌詞が採用された。以来、入学式・卒業式などでこの歌が親しまれている。※13ページ下段に掲載。また、観光関連の学修成果を卒業論文「18世紀ナポリ食文化と沖縄」AVPNへの軌跡」にまとめた過程では、沖縄観光の発展は質の向上

理念を「地域共創・未来共創の大学へ」と発展させ、地球大で考え方元から行動を起こす21世紀型市民である「地球市民」の共育をめざします。沖縄大学憲章のもう一節を紹介します。

戦争は最大の人権・環境破壊です。世界で年間150兆円も注ぎ込まれるといわれる軍事費は、貧困や地球環境問題などの地球規模の課題を解決するためにこそ使われるべきです。そのためには沖縄大学は、自立した平和な沖縄を実現すべく、沖縄を軍事基地のない島とする多様な研究提言や実践に取り組みます。



2014年度表彰
学長特別賞
学業のみならず、他の分野においても傑出した活動をし、そのことによって地域社会及び本学に多大な貢献をなした学生またはグループに授与。

2014年度表彰

法経学部長賞

各学部（学科）において学業及び研究のほか、他の分野においても傑出した活動によって本学に多大な貢献をなした学生に授与。

該当者無し

嘉数昇記念賞

創立者嘉数昇氏の業績を記念する賞。学業・スポーツ・文化活動・社会活動その他の分野において活躍し、本学の社会的名聲を高めることに貢献した学生またはグループに授与。

あるという考え方に基づいて、世界でも認定が難しい「眞のナポリピツツア」を出す店『AVPN⁽¹⁾』に該当するピザ店を沖縄本島数百の補の中から選び、イタリア政府公認の協会本部にコンクートをとり、AVPN認定橋渡しを行つた⁽²⁾。沖縄で初、九州地区で5件目、世界でもわずか504件しか認定されていない。ツアーコンダクターとして活躍してきた彼女の経験、多数・長期に渡り海外経験を活かした行動力を讃える。

4年間真剣に学業に励み、優秀な成績を修めた。多くの奨学金を受給しながら、ファ



河野 咲 (法経学科)



稻福 絵梨香 (法経学科)

2級に合格。学内行事では法経学会学生運営委員を2年間にわたり担い、法経学科ゼミナル大会で「2013準グランプリ」「2014グランプリ」という成果を挙げた。りゆうせき商事株式会社に内定。



山口 夏菜 (国際コミュニケーション学科)

イナンシャルプランナー検定2級に合格。学内行事では法経学会学生運営委員を2年間にわたり担い、法経学科ゼミナル大会で「2013準グランプリ」「2014グランプリ」という成果を挙げた。りゆうせき商事株式会社に内定。

小学校教員となることを目標に、何事にも真面目に一生懸



酒屋 美香 (こども文化学科)

入学時から優秀な成績を維持し、学業のみならず課外活動でも吹奏楽部の部長として部員をまとめ県内各地で公演を行う等、様々な活動に積極的に取り組んだ。ゼミ活動において仲間との結びつき」という問題意識から卒業論文「大学生の居場所感とSNSとの関連」に取り組んだ。高校福祉課教員免許を取得し、社会福祉士国家試験に合格した。



安里 咲乃 (福祉文化学科)

命取り組んだ。学外では小学校3年から始めた創作エイサーケーを続け、大学における学業では絶えず学科でトップの成績を維持し続けた。3年次は、模擬学校「沖大付属小中学校」の実行委員長を務め、重責を果たした。4年次には教員採用試験に向けた勉学に励み、現役合格を果たした。



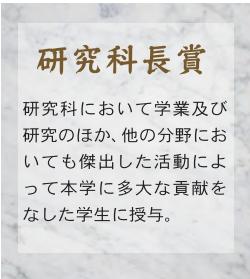
鈴木 陽子 (現代沖縄研究科沖縄・東アジア地域研究専攻)

現代沖縄研究
奨励賞

大学院生の優れた研究活動に報いることにより、さらに高次の研究に邁進してもらいたいという目的で創設された新崎盛暉沖縄大学名誉教授からの寄附金を原資にした奨学金。

ハンセン病療養所沖縄愛樂園に暮らす人たち、元入所者、さらに同園に勤めた経験を有する医療従事者からの聞き取りを軸に、20世紀日本

該當者無し



のハンセン病対策にかかる歴史資料を駆使してハンセン病問題を論じ、人間の本質と存在について、それがどのようにつくられ決定されていくのかをハンセン病等を病む人の人生を見据えることから示したことが高く評価された。さらに、地域社会に根ざすこの研究は、人間研究として広範な意味をもつと同時に、病みながら生きることの意味を問い合わせ、病気や障がいを伴う人と共に生きようとする現代人が等しく向き合ふわけなければならない福祉の学びの分野においてとりわけ貴重で、本論文の刊行に伴う費用として本奨励金が用いられるることは、研究奨励賞の趣旨にかなうものであると評された。なお、今後は立命館大学博士課程に進み、研究を続けていく予定である。



那覇市市長祝辞

那覇市長 城間 幹子

はいたい ぐすーよー

ちゅうがなびら。
沖縄大学卒業式ならびに大学院修了式にあたり、ご挨拶を申し上げます。

今日の佳き日に、卒業を迎えた学生の皆様、大学院を修了された大学院生の皆様、そしてご家族の皆様、まことにおめでとうございます。

沖縄大学の掲げる「地域共創・未来共創」という理念の下、学問の探求やスポーツに励み、多くの社会貢献活動にも打ちこまれてきた皆様は、本市にとりまして、かけがえのない人材であり、宝であります。

私も「人がまちをつくり、社会をつくり、世界をつくる」「人材がすべてに共通する財産である」という熱い思いを込めた「ひとつつなぐまち」というキャッチフレーズを掲げ、地域を支える人材の育成に邁進しております。そして、人材という宝を、有機的につなげ、地域の活性化に全力を尽す。さて、昨年11月に茨城県つくば市で行われた「第10回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」では、貴大学の「障がい学生支援」の取り組みが見事、新人賞を受賞しましたと伺っております。全学的な取り組みが高く評価されたものであり、私も那覇市長として、また30余年にわたり教育の現場に身を置き、教育に携わってきた者として大変喜ばしく思います。



同窓会会長祝辞

沖縄大学同窓会長 金城 正弘

はいさい ぐすーよー

ちゅうがなびら。
沖縄大学学部卒業式・大

学院修了式にあたり卒業生・修了生の皆様おめでとうございます。また、これまで皆様を支えてこられたご家族、沖縄大学関係者に同窓会を代表し、お祝い申し上げます。沖縄大学同窓会は、昨年11月28日に創立50周年を迎えました。1964年東京オリンピック開催の年に短大部・学部の一期生を中心とした1800人でスタートし、今や沖縄県の政・財界、教育、文化、スポーツのあらゆる分野にその才能を發揮し活躍しています。式典・祝賀会では、会場あふれんばかりに東、宮古、八重山、久米島の各支部と昨年11月に発足した台湾支部の各支部長をはじめ

国も、地方に生きる人々が、自らの地域の未来に夢を描き、それぞれの個性を發揮しきることを切に願つております。輝ける地域社会の実現を後押しするとしており、「地域に根差す」という沖縄大学の伝統が、ますます大きな意味を持つてまいります。

卒業生および修了生の皆様には、次代の沖縄を担つていくという強い意志と希望を持って、沖縄大学の期待する「未来を共に語る地域の中核的人材」としてご活躍されることを切に願つております。結びに、沖縄大学のますますのご発展と、卒業生・修了生の皆様のこれからのご活躍と輝かしい未来を祈念いたします。いつペーにふえーでー

め多くの卒業生、沖縄大学関係者が集い盛大に開催することができました。改めて感謝申し上げます。今後同窓会の課題は、若い同窓生の参加です。この4月に同窓会青年部が発足する予定です。皆さまの同窓会活動への参加が大きく活性化につながります。

最近大変嬉しいニュースがありました。那覇市と沖縄大学との間に「①地域の人材育成②地域づくり③健福祉社会づくり④教育文化の振興」の4分野にわたる包括連携協定が締結されたことです。那覇市の「協働によるまちづくり」「ひとつなぐまち」への取り組みと沖縄大学の「地域共創・未来共創」の教育理念が関わり学び合っています。那覇市と沖縄大学が描く生き生きとしたグランデザインに向けて共に発展することを期待するものです。

卒業生の皆さん。今話題になつてているフランスの経済学者トマ・ピケティ教授は『21世紀の資本』の中で、グローバル経済の下で資本は国境を越え、何の規制もなければ一部の資本家に資本蓄積が進み、貧富の格差は一層拡大すると言っています。こうした時代・社会背景の中でも、まさに命と財産を守る軍の占領支配下に置かれ基本人権と自由が奪われる中で、まさに命と財産を守る憲法をめざす島ぐるみの祖国復帰闘争となりました。復帰直前の1971年11月当時の屋良朝苗主席は、日本政

府に対し「県民福祉を第一義とすべきこと、明治以来自治を否定してきた地方自治を特に尊重すること、異民族支配下の基地からの解放と戦争を否定し平和を尊重すること、平和憲法下の人権の回復と県民主体の経済開発などを『建議書』にまとめました。その精神は2013年の普天間基地閉鎖とオスプレイ配備反対の『建白書』にひき繋がっています。沖縄県民の総意に反し辺野古の海を埋め立てる新基地建設は、日米安保条約を基軸とした軍事要塞化の前線基地として沖縄を位置付け、自治と自立を目指す沖縄県の将来ビジョンを阻み、政府の進めている地方創生の理念にも反します。

先輩方は、この沖縄大学で過ごされた日々をどのように振り返っていらっしゃります。例年以上に厳しかった冬の寒さに終わりを告げて、温かな日差しを受けた木々や、花々が誇らしく芽吹く姿に春を感じる季節となりました。この春の良き日に、晴れてご卒業を迎えた四年生の皆さんへ、在学生を代表し心よりお祝いの言葉を申し上げます。ご卒業おめでとうござい

在校生送辞

在校生代表

法経学部

法経学科三年次

仲宗根 沙貴



しようか。4年前、新しい出会いに心を弾ませて入学された日から、多くの人の素晴らしい出会いの中で、貴重な体験をし、十人十色の思い出を築き上げてこられたことと思います。あの日から成長を遂げ、大きく変化したこともあります。あの日から成長を遂げれば、変わらず大切にされている思いもあるでしょ。日々の講義やゼミ活動、サークル活動に勤しまれた先輩、さまざまなボランティア活動や企業実習に参加された先輩、資格試験や就職活動に真摯に取り組まれた先輩。思い思ふ努力を重ねられてきた先輩方と共に過ごした日々は、私たち後輩にとって何ものにも代え難い宝物です。

私たち後輩は、いかなるときも終始一貫して信念を貫き通す先輩方の姿勢を、ゼミ活動やサークル活動を通じて拝見し、お手本としてきました。私たちにとつて先輩方は、心のより所であると同時に憧れの存在です。私たちが新しいことに挑戦する際には、あたたかな眼差しで見守り、不安で挫折てしまいそうなときは、そつと背中を押してくれる励ましの言葉や、心強いアドバ

イスで勇気づけてくださいました。常に私たちの前を歩み、お手本を示してくださいました。先輩方へ、心より感謝と尊敬の意を表したいと思います。今後、私たちは先輩方から託された意思を受け継ぎ、また次の後輩たちへと繋ぐために、日々精進を重ねて参りたいと存じます。

卒業は一つの終着点であり、また新たな人生の出発点でもあります。ここに晴れて船出する先輩方は、日々目まぐるしく変化する複雑な社会の中で、乗り越えることが容易でない壁にぶつかることもあるでしょう。心が折れてしまいそうなときは、どうか沖縄大学で過ごした日々を思い出させてください。この場所で培われた知識や教養、築かれた人と人との繋がりの輪が、必ずや先輩方を良い方向へと導く鍵となるでしょう。人生につまずきそうなときは、どうか沖縄大学にいつでも気軽に足をお運びください。先輩方の恩師や顔なじみの職員から必ずや適切なアドバイスをいつまでも名残は尽きませんが、これまで私たちを良心的に支えて下さった先輩方の晴れの舞台を心より祝福し、今後のご健勝をご活躍をお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

卒業生答辭

卒業生代表
人文学部

文化学科

日差しに春の訪れを感じさせた。私は、晴れて沖縄大学の卒業式を迎えることができました。本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な式を挙行していただき、誠にありがとうございました。また、ご多忙の中ご出席くださいましたご来賓の皆さん、仲地学長はじめ諸先生方、並びに関係者の皆さんに、卒業生一同心より御礼申し上げま



たことは私の貴重な経験となりました。私たちは4年間で多くの学びを得ました。しかし、何よりも人の出会いに恵まれたことが大きいと思います。共に遊び、遊び、楽しみも、喜びも、苦しみも、悲しみも、共にしてきた友人たち。知識を与え、温かく見守り、時には叱つて下さった先生方。この沖縄大学だからこそ出会うことができた人たちは今も、これからも私たちの大切な宝物です。出会えた幸運に感謝し、今日で終わりではなく、これからも続していく関係を願っています。そして、今まで育ってくれた保護者の皆さま。働き、子どもを育てるということの大変さを私たちの多くはまだ経験していません。私は生まれ育った石垣島から、沖縄本島に移り住み、大学生活を送りました。親元を離れて、親のありがたみ、生活することの大変さを実感し、両親を尊敬し、感謝した日々でもありました。

私たちとは今日を境に、共に歩んできた仲間とは違った道へと歩んでいきます。「人はどこに行くのか」ではなく、「そこで自分が何をするのか」が大切だと思っています。これからどのような道を歩んでいくか、進んだ場所でどのような人生を築いていくかは私たち次第です。私たちが卒業する2015年は戦後70年という節目を迎えます。私たちの住み、繋がり合える活動ができることで、地域の方々から「毎年楽しみにしているよ」「応援しているね」など声をかけていただくなことも多く、言語や世代を越えて、繋がり合える活動ができる4年前この会場で、不安と期待を胸に抱きながらスター

トした学生生活は瞬く間に過ぎていきました。この4年間には、私たち一人ひとりの歴史がそれぞれ刻まれています。私自身のことになりますが、大学では福祉を専攻し、人を支援するということを深く学びました。大学1年生の5月、岩手県へボランティアに行き、被災地の現状を目の当たりにしました。現地の方々は辛い状況にもかかわらず、温かく優しく関わって下さったこと、今でも覚えています。このボランティアから私の福祉の学びはスタートしました。そこから4年間かけて学んだことは、今まで知らなかつた物の見方、価値観、知識、技術ばかりでした。多くの気づきがあり、福祉を学ぶことは人生を学ぶことに繋がると4年間を通して強く感じています。また、エイサー・サークルに所属し、学園祭や、道ջュネーなど多くのイベントを行いました。地域の方々から「毎年楽しみにしているよ」「応援しているね」など声をかけていただくなことも多く、言語や世代を越えて、繋がり合える活動ができ



む沖縄には多くの問題が存在しています。問題に目を向けて、知り、そして自ら行動できる人材となり、沖縄大学での学びを糧にして、それぞれの分野で励んでいく所存です。

最後になりましたが、この4年間お互い支え合い共に歩んできた友人たち、お世話をなった先生方、職員の皆様、さらに今まで温かく見守つてくれた家族がいたからこそ、私たちは今日晴れて卒業の日を迎えることができました。卒業生を代表して、私たちに関わる全ての人々に、言い尽くせないほどの感謝の気持ちを込めて、答辭とさせていただきまます。本当にありがとうございました。

未来に続く学舎で
【沖縄大学生歌】
作詞 結澤幸子
作曲 知花龍海

国場の丘を回贈すと
それは夢に一歩近づくと
無限に広がる可能性
今こそその扉開けると
緑芽吹き実り多き島の
歴史を築く歩道で
誇り高き夢への道
歌おうOkinawa Daigaku
忘れかけてた遠い夢
実現への階段を今上の
夢はあなたを待つて
未来に続く歩道で
誇り高き夢への道 歌おう
海の碧き島の清き島の
笑顔絶えることなし キャンパスで
未来に続く歩道で
Okinawa Daigaku
Take a chance Together
チャンスをつかむのは今
迷いを捨てて信じてゆけ
沖縄の眩しい太陽の下で
緑芽吹き実り多き島の
歴史を築く歩道で
誇り高き夢への道歌おう
未来に続く歩道で
Okinawa Daigaku
海の碧き島の清き島の
誇り高き夢への道歌おう
Okinawa Daigaku

志川(與儀瑠菜(知念)石川義邦
(泊)神里宏樹(南風原)喜友名
朝秀(前原)津嘉山聰志(北谷)
長岡伸也(泊)外間蒼也(泊)仲
原将太郎(宣野湾上地梢辺士
名与儀かなえ(西原)新垣結衣
(小禄)伊良皆櫻(八重山)垣花
理央(泊)兼次珠理(浦添商業
黒島美智留(八重山)新垣麻紀
(石川)安次富愛(前原)伊野波
添上地久美子(南部農林松本
弥生(知念)渡口里緒奈(西原)
島袋雛(北部農林)田原美海(八
重山)

後援会支援修学奨学生

夜間主賞学生

教育ローン等利子負担選学生
照屋きよ(泊)比嘉信一(その他)
宮良遙(浦添商業) 大城郁佳琳(那覇)
夜間主授学生
夜間の時間帯6・7校時を単位
数で7割以上受講している勤労
学生や社会人学生。

教育ローン等利子負担奨学生

教育ローン等利子負担選択学生
人物・業界ともに優れた学生で、
その父母等が金融機関の教育ロー
ン等申込みは借り入れている者。

冠獎學生

知念貴之(美来工科) 錦戸由紀子
(南部農林)



リレーエッセイ 第3回

「2162名」この数字は業者主催の進学ガイダンスで、入試広報室が14年度の一年間に対応した高校生の延べ人数です。それ以外でも大学独自の入試相談会では「173名」、オーブンキャンパスでは「71名」と、入試広報室ではたくさんの高校生と出会いいます。』入試広報

出会い“入試広報室”で仕事をしていると、このキーワードが頭を駆け巡ります。沖大を受験する高校生には本当にいろいろな生徒がいます。沖大に何としても入りたくて、沖大のことを勉強している生徒や、ただなんとなく沖大を受験する生徒、友達が沖大に行くから一緒に受験しようと思っている生徒など様々です。そんな中何度も対応している生徒には、何としても合格させたい気持ちになります。その生徒には、対応する回数が重なるにつれ、僕のアドバイスにも次第に力が入りります。それでも不合格になつた場合は本人が一番落ち込んでも落ち込んでしまいます。その後も高校訪問などで合格に至らなかつた点を伝え、もう一度チャレンジしてもらおうよう呼びかけます。このように何度も対応し顔見知りになつた生徒は、入学後オープンキャンパスで学生スタッフとして一緒に動いてくれたり、いろんな場面で活躍してくれています。“出会い”が“繋がり”になるのです。

先日の卒業式では、進学ガイダンスなどで僕が初めて対応した学生たちが卒業しました。入試広報室一年目の新米で、大したア

今後、社会人として卒業生に出会う機会があると思います。その時は今は違った“出会い”繋がりになつているかもしれません。それもまた楽しみです。

ドとして頑張つていきた
いと思います。そして、「ア
試広報」「出会い」「繋がり
をポリシーにして、高校
生・大学生・卒業生と開
わっていくことが自分自
身の成長にも繋がるもの
だと信じています。

次回は、就職支援課の島
仲さん。よろしくお願ひし
ます。

次回は、就職支援課の島
仲さん。よろしくお願ひし
ます。

沖大サッカー部OBの上原選手、来学

Jリーガー、コンサドーレ札幌DFの上原慎也選手(28)が金武町でのキャンプ期間中の2月16日、長濱正弘理事長、仲地博学長を訪ね、懇談しました。「昨年試合中に左膝を負傷したためキャンプでは



左から4人目が上原慎也選手

別メニューで調整しており、ここまで順調に来ているので、自分の特長をしつかりアピールしていきたい」と報告。6月の復帰が予定されています。

2014年度寄附金報告

2014年4月1日から2015年3月16日までの間にいただいたご寄附について、以下のようにご報告いたします。このご厚意を大切にし、有効に使わせて頂きたいと存じます。ご寄附いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

寄附者	金額(円)
冠奨学金	7,000,000
企業・団体	3,185,800
個人	75,000
沖縄大学後援会	14,000,000
沖縄大学同窓会	1,040,000
教職員・役員	1,985,000
合計	27,285,800

(寄附者内訳)

冠奨学金	金額(円)
(株)琉球銀行 様	1,750,000
(株)沖縄海邦銀行 様	1,050,000
(株)沖縄銀行 様	1,050,000
那覇空港ビルディング(株) 様	700,000
(株)OCS 様	350,000
(株)沖縄教育出版 様	350,000
沖縄電力(株) 様	350,000
沖縄ビル管理(株) 様	350,000
オリオンビール(株) 様	350,000
(株)りゅうせき 様	350,000
仲里 政幸 様	350,000

企業・団体	金額(円)
(公財)緑の地球防衛基金 様	1,447,800
(株)碧 様	1,000,000
(公財)金秀青少年育成財団 様	100,000
宮古テレビ(株) 様	100,000
丸尾建設(株) 様	70,000
勝建設(株) 様	35,000
共和産業(株) 様	35,000
先島建設(株) 様	35,000
(株)多良川 様	35,000
(株)ビースアイランド宮古島 様	35,000
八重山観光フェリー(株) 様	35,000
(有)松島建設 様	10,000
宮古製糖(株) 様	10,000
沖縄自分史センター(株) 様	5,000
(株)丸産業 様	5,000
同窓会宮古支部有志 様	138,000
同窓会八重山支部有志 様	90,000

個人	金額(円)
仲村 芳信 様	20,000
渡真利 浩 様	10,000
野津 武彦 様	10,000
毛利 孝雄 様	10,000
謝名 孝雄 様	5,000
天願 貴志 様	5,000
仲村 昌和 様	5,000
備瀬 知晶 様	5,000
屋富祖 繁幸 様	5,000

本学関係	金額(円)
沖縄大学後援会	14,000,000
沖縄大学同窓会	1,040,000
沖縄大学教職員	1,985,000

沖大、聴覚障がい支援ネットワークへ参加

2月、本学は日本聴覚障害高等教育支援ネットワーク(通称ペップネット)に加盟しました。ペップネットは全国の大学などで学ぶ聴覚障がい学生を支援する団体で、本学の加入は九州・沖縄地区では2校



加盟を記者発表する横山正見、平良悟子
障がい学生支援コーディネーター

目。2004年度から10年間の支援活動が評価されました。今後も、障がい学生支援を通じたユニークなキャリアパスづくりに取り組みます。

沖縄学生サミットで沖大をPR

「沖縄学生サミット2015」(大学コンソーシアム沖縄主催)が3月7、8日の2日間琉球大学で開催されました。県内11高等教育機関の学生が集まり、自校の紹介をしました。本学からは、法経学科の玉城君、勢理客君らが参加し、沖大の歴史や魅力ある講義などを紹介。「沖大の設立経緯や建学理念を学び直すいい機会になった」ととも話していました。



沖大を紹介する玉城征也君、勢理客邦治君

「ピツツエリヤ・オング」
NAPOLIコースを注文。
けいし風」を読みながら待つて
いたら「オキダイナ」の前菜か
ら始まりました、というのは春か
眠の夢でありました。(後藤)



地域研究所主催の第13回ジュニア研究支援発表会(2月21日3-101にて)
(前列左より、田里審査員、盛口審査員、OB普天間基さん、藤井審査員、アキノ隊員)